

8-10		主題	玩具療法への取り組み	
アクティビティ		副題	おもちゃでCHA-CHA-CHAとなる為に	
研究期間	9ヶ月	事業所	たいとう高齢者在宅サービスセンター	
発表者： 寺田浩司		アドバイザー：		
共同研究者： 廣瀬悦子 田中亜貴恵 飯村誠				
電話	03-3834-4437	メール	taitou@seifuukai.or.jp	
FAX	03-5807-5738	URL	http://www.seifuukai.or.jp	

今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人聖風会が母体である、たいとう高齢者在宅サービスセンターは、平成13年6月に開設しました。一般デイ30名、認知症デイ12名の通所介護サービスです。その他、特別養護老人ホーム、地域包括支援センター、ケアマネジメントセンターも併設している高齢者総合福祉施設です。
------------------	--

<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>平成21年6月より台東区高齢福祉課の支援のもと、区内のデイサービスにて玩具療法を実践していく取り組みが始まった。玩具療法は認知症進行防止に効果があるという研究結果もあり、認知症デイの御利用者を中心に取り入れていくことになった。</p> <p>状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午後になると帰宅願望が見られ席を立ち上がりフロア内を歩き回るなどの行動が見られた。 ・活動内容によっては参加ができず、何もせず過ごしている時間が多くなってしまう事がある。 ・気に入らない事やつまらない事があると、興奮して乱暴な言葉を発したり、たたくなどの暴力的な行為がみられた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰宅願望により徘徊が見られた時は職員の付き添いが必要であり、同時に何人もの方が歩き回ると職員の手が足りなくなる時がある。その結果、転倒事故等の危険性が高くなる。 ・利用者個々に合った活動内容の提供 ・精神的に不安定になる事が介護拒否につながる要因となる。 	<p>《研究の目標と期待する成果》</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症状がある方の帰宅願望が減少し、落ち着いて過ごして頂けることを期待して、玩具療法に取り組んだ。 <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の行動にスムーズに移るきっかけとなるよう期待した。 ・おもちゃに接することで、表情が豊かになるよう、また、短時間でも集中して落ち着くことのできる環境になるよう期待して取り組んだ。
---	---

《具体的な取り組みの内容》

- 玩具療法の研修や勉強会に参加し様々な効果がある事を理解し、今後において活用できそうな点を取り入れた。
- 玩具療法士に実際に来ていただき、玩具療法を実践し具体的な方法や取り組み方を検討した。
- 空いた時間で実際に玩具を使用して、落ち着かなくなる時間帯等様々な状況に応じて取り組んだ。
- 個々の利用者にあった玩具を選択して行い、混乱したり興奮しない様に、あまり。難しいことはして頂かないようにした。

《取り組みの結果と評価》

- ぬいぐるみを溺愛するようになったことで、帰宅願望が減り、一時的ではあるが落ち着いた。
- 利用者や職員との間で会話のきっかけとなったり、コミュニケーションの機会が増えた。
- 移動や行動に移る時など、玩具を用いて次の行動を促すきっかけを作った。
- 笑顔が増え、表情豊かになり、拒否や暴力的な行為が減少した。
- パズルを組み立てたり、ぬいぐるみをかわいがったり、好きなおもちゃに対しては積極的な姿勢が見られた。
- 自宅に1人でいる事が寂しい為、実際に犬のぬいぐるみを購入した利用者がいた。

《まとめ》

- 定期的な消毒の必要性
かわいがるあまり、ぬいぐるみをなめたり、おもちゃを汚れた手で触るなど衛生面で問題があるため、定期的な消毒管理の徹底をする。
- 玩具療法の提供する時間の確立
今は実施する時間がいまいで漠然としているが、今後行っていくうえで効果的な時間帯を探り、確立していく。
- 玩具におけるトラブル防止
玩具に夢中になってしまい、離さなかったり持ち帰ろうとする。取りあい等による利用者間のいざこざを未然に防ぐ。

《提案と発信》

利用者に適した玩具を見極め、様々な効果を得ることが不可欠であるが、予算面で負担増ある為、なかなか困難である。今ある玩具でいかに長い時間楽しく夢中になって、効率よく遊んで頂くように取り組み方法を検討し対応していく必要がある。

【メモ欄】 追加資料 無